

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ケーズデンキ花園店	階数	地上1F
建設地	埼玉県深谷市荒川字鍛冶ヶ谷戸	構造	S造
用途地域	都市計画区域内	平均居住人員	25 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,982 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年5月 予定	評価の実施日	2022年6月16日
敷地面積	9,564 m <sup>2</sup>	作成者	(株)関根商事関根建築設計室
建築面積	3,812 m <sup>2</sup>	確認日	2022年6月16日
延床面積	3,806 m <sup>2</sup>	確認者	(株)関根商事関根建築設計室



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (184 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 86% (158 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の 86% (158 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④上記+ 86% (158 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 2.9**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.3**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	建物形状を単純な箱型形状とし省エネ、経済性に重点を置いた計画を心がけた。地域性を考慮し敷地の空地部分及び外壁に緑地を可能な限り施した。敷地周辺環境を考慮し平屋建てで計画した。	<b>その他</b> Q2: 補修必要間隔の長い仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。
<b>Q1 室内環境</b>	F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、空気質環境に配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> 天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。内装材は防汚性に配慮した材料を使用するなど維持管理に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b>	LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 緑地を設けることにより、良好な景観を形成している。
	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ノンフロン断熱材を採用するなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。	<b>LR3 敷地外環境</b> 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)ケースデンキ花園店**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>		-	<b>2.8</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.6</b>	0.15	-	-	<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	1.00	-	-	
2 界壁遮音性能						-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	
1.3 吸音						<b>1.0</b>	0.20	-	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.3</b>	0.35	-	-	<b>2.3</b>
2.1 室温制御						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.50	-	-	
2 外皮性能						3.0	0.17	-	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.33	-	-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式						2.0	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
3.1 昼光利用						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 昼光率						-	-	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	1.00	-	-	
3.2 グレア対策						-	-	-	-	
1 昼光制御						-	-	-	-	
3.3 照度						-	-	-	-	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.8</b>	0.25	-	-	<b>3.8</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材を全面的に採用				4.0	1.00	-	-	
4.2 換気						<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.50	-	-	
2 自然換気性能						-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		給気位置と排気位置は異なる方位で、6m以上離れて設置				5.0	0.50	-	-	
4.3 運用管理						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		喫煙室は天井裏まで区画し負圧に保つなど十分な対策を実施				5.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.2</b>	0.40	-	-	<b>3.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						-	-	-	-	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>2.6</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		売場の天井高3.6m以上				5.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース						2.0	0.33	-	-	
3 内装計画						1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		便所は清掃しやすい内装材、外部の金属部に亜鉛メッキ処理等				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		清掃員控え室・管理倉庫・廃棄物スペースは十分な広さを計画等				4.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.1</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床: 塩ビタイル20年、壁: クロス貼20年、天井: ボード30年				4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水・汚水・雑排水管の主要用途2種についてC以上				4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>3.2</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		光ケーブル・メタルケーブル・PHS網等通信の多様化、精密機器を地上階に設置				4.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.7</b>	0.30	-	-	<b>3.7</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	[壁長さ比率]<0.1	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラック等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	配管内配線等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			BPI <sub>m</sub> =0.90	<b>4.0</b>	0.20	-	<b>4.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>3.0</b>	0.10	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			[BEI][BEI <sub>m</sub> ]= 0.83	<b>2.8</b>	0.50	-	<b>2.8</b>
<b>4 効率的運用</b>				<b>3.0</b>	0.20	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価				<b>3.0</b>	1.00	-	-
4.1	モニタリング			3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制			3.0	0.50	-	-
集合住宅の評価				-	-	-	-
4.1	モニタリング			-	-	-	-
4.2	運用管理体制			-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 水資源保護</b>				<b>3.8</b>	0.20	-	<b>3.8</b>
<b>1.1 節水</b>			自動水栓・泡沫水栓・節水こまや節水型便器を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				<b>3.7</b>	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		雨水利用を計画	4.0	0.70	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>3.7</b>	0.60	-	<b>3.7</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>				3.0	0.10	-	-
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>				3.0	0.20	-	-
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			-	3.0	0.20	-	-
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			断熱材:土間下、ビニル系床材:床仕上げ、再生加熱アスファルト混合物:路盤材	5.0	0.20	-	-
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>				2.0	0.10	-	-
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			内装が乾式工法で分別性に配慮	5.0	0.20	-	-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				<b>3.3</b>	0.20	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>				<b>3.0</b>	0.30	-	-
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				<b>3.5</b>	0.70	-	-
1	消火剤			-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		ODP=0.01未満かつGWP50未満の断熱材を採用	4.0	0.50	-	-
3	冷媒			3.0	0.50	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			消費エネルギー量削減により運用時のLCCO <sub>2</sub> 排出量低減に配慮	<b>3.5</b>	0.33	-	<b>3.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>				<b>3.6</b>	0.33	-	<b>3.6</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			燃焼機器は不採用	<b>5.0</b>	0.25	-	-
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				<b>3.0</b>	0.50	-	-
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				<b>3.7</b>	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制		敷地内に駐輪場、駐車場を配置、管理用・荷捌き用車両スペースの確保、複数の出入口を設置	5.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		ゴミ量の推計や、有価物の回収を計画など	4.0	0.25	-	-
<b>3 周辺環境への配慮</b>				<b>3.2</b>	0.33	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	-
1	騒音			3.0	0.50	-	-
2	振動			3.0	0.50	-	-
3	悪臭			-	-	-	-
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	-
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制			-	-	-	-
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-
<b>3.3 光害の抑制</b>				<b>4.4</b>	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害チェックリストの過半を満たす	5.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-

# CASBEE埼玉県 重点項目シート












■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)ケースデンキ花園店	BEE	1.1	BEEランク	★★★
------	---------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.5	+	2.3	=	5.8	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
	 	  	   		

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.5
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.5
<配慮した内容を記述> 消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮している			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 夏期の卓越風向に対する建築物の見付け面積を小さくするよう配慮している 風を回復させるよう建築物の高さ形状建築物間の隣棟間隔等を工夫している			

: 入力欄